平成３１年度 徳島大学大学院 総合科学教育部 Ｉ期 入学試験問題

博士前期課程

臨床心理学専攻

臨床心理学分野

受験科目名：臨床心理学

（社会人特別選抜）

【注意事項】

1　係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。

2　試験問題は，表紙（この紙）１枚，問題・解答用紙６枚の，合計７枚である。

3　解答開始後，各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。

4　問題は合計５問である。５問ともすべて解答すること。

5　解答は指定された解答欄に記入すること。

6　配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その１

第１問　心理学研究法としての量的研究（quantitative study）と質的研究（qualitative study）について，次の**問１～３**に答えよ。

問１　両研究について，それぞれの違いが分かるように具体例を挙げて説明せよ。

問２　両研究について，それぞれの長短所について述べよ。

問３　どのような場合にどちらの研究法を用いればよいかについて，判断の基準を述べよ。

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その２

第２問　心理学に関連する，次の語 1～20 とそれぞれ関連が最も深い語を，下の語群 a～z のうちから一つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. Wolpe, J.
2. ヤング=ヘルムホルツの法則
3. PM 理論
4. ソマティック・マーカー仮説
5. 認知的不協和理論
6. アンダーマイニング効果
7. Vygotsky, L. S.
8. 傍観者効果
9. Cronbach, L. J.
10. 単回帰分析
11. 代替テスト法
12. ウェーバーの法則
13. 階層ネットワークモデル
14. Terrace, H. S.
15. ワーキングメモリ
16. Kohlberg, L.
17. シャクター=シンガー説
18. Tolman, E. C.
19. 拡張-形成モデル
20. 視覚的補完

語群

a. サイバネティックス
b. リーダーシップ
c. ステレオタイプ
d. 自己説得
e. 三原色説
f. 主観的輪郭
g. 中央実行系
h. 感情制御
i. 発達の最近接領域
j. 聴衆抑制
k. 適正処遇交互作用
l. 過剰正当化効果
m. ポジティブ感情
n. 信頼性
o. 最小２乗法
p. 丁度可知差異
q. 感情の２要因理論
r. 無誤弁別訓練
s. 潜在学習
t. 演繹的推論
u. コホート
v. ホムンクルス
w. 系統的脱感作法
x. 道徳性の発達
y. 錐体視
z. 意味記憶

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その３

第３問　A さんは大学の心理学実験の授業で「表情認知の発達的変化」を調べるため，乳児を対象とした実験を実施した。その実験レポートの一部を下に示す。このレポートを参照し，**問１～７**に答えよ。
※データは架空のものである。

心理学実験レポート　「表情認知の発達的変化」　　xxxx-xx1　A　　2018. 08.26

1. 問題と目的

ヒトは他者とのコミュニケーションにおいて…（略）…。そこで，本実験では，笑顔刺激と中立顔（何の感情も抱いていない表情）刺激に対する乳児（5 ヶ月児及び 10 ヶ月児）の注視時間を計測し比較することで，表情認知の発達的変化を調べることを目的とする。

本実験の仮説は，「①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」，である。従って，②5 ヶ月児では笑顔刺激と中立顔刺激に対する注視時間に差は生じないが，10 ヶ月児では中立刺激に対する注視時間に比べて笑顔刺激に対する注視時間が長くなるとの結果が得られると予想される。

2. 方法

2.1. 実験参加者：日本国内 B 県在住の 5 ヶ月児　20 名，10 ヶ月児　20 名が実験に参加した。
全ての被験者のデータを解析に用いた。

2.2. 材料：日本人の笑顔写真，中立顔写真を刺激として用いた。眼球運動測定装置を用い乳児の視線を記録し，写真を注視していた時間を計測した。

2.3. 手続き：全ての実験参加乳児に対して，まず，笑顔写真を 1 枚ずつ 10 秒間提示する笑顔条件（合計 10 枚提示，ISI は 10 秒）にて実験を実施した。その後休憩を挟み，同様に中立顔写真を提示する条件で実験を実施した。参加乳児ごとに条件別に各写真に対する注視時間を平均した値を算出し，個人の代表値としてデータ解析に用いた。

2.4. 実験計画とデータ解析：

本実験における独立変数は，③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
また，従属変数は④＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
データ解析手法として，⑤＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿計画の分散分析を用いた。

3. 結果

図 1（略）に各月齢における平均注視時間を条件ごとに示す。統計解析の結果，交互作用が有意であり（⑥＿＿＿（⑦＿, 38) = 13.22, ⑧＿＿＿ < .01)，各要因の主効果もみられた…（以下，略）

受験番号	

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その４

問１　下線部①に適当な文章を書け。

問２　下線部②の結果を得るために必要な検定を挙げよ。

問３　発達研究において，本実験のように同時期に異なる月齢（年齢）の被験者を測定する手法の名称を述べよ。また，他の発達研究手法と比べて，この研究手法を実験研究に用いる際の有利な点を簡潔に述べよ。

問４　笑顔条件において，最初の刺激が提示されてから最後の刺激の提示終了までの所要時間を答えよ。

問５　下線部③，④及び⑤に入る文・語句として適当なものを答えよ。また，適宜「被験者内」「被験者間」の用語を用いること。

③

④

⑤

問６　下線部⑥～⑧に入る数字もしくは記号として適当なものを答えよ。

⑥　　⑦　　⑧

問７　本実験の手続きにおける問題点とその理由，また，その解決策を答えよ。

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その５

第４問　心理学に関連する，次の語 1～20 とそれぞれ関連が最も深い語を，下の語群 a～z のうちから一つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. The sixteen personality factor questionnarie (16PF 人格検査)　2. エンカウンター・グループ (Encounter group)
3. Mini-Mental State Examination (MMSE)　4. Wechsler Intelligence Scale for Children-Fourth Edition (WISC-IV)
5. 社会的再適応評価尺度　6. 森田療法　7. 自我心理学　8. 実行機能 (executive function)　9. 対象関係論
10. レビー小体型認知症　11. 内観療法　12. 反社会性パーソナリティ障害 (Antisocial Personality Disorder)
13. 論理療法　14. ソーシャル・スキル・トレーニング (SST : social skills training)　15. フォーカシング (focusing)
16. 高齢者虐待　17. 国際生活機能分類 (ICF : international classification of functioning, disability and health)
18. 家族療法　19. 統合的アプローチ　20. 自閉症スペクトラム障害 (ASD : Autism Spectrum Disorder)

語群

a. パーキソニズム　b. 言語理解／知覚推理／ワーキングメモリ／処理速度　c. Selye, H.　d. Liberman, R. P.
e. Holmes, T. H. & Rahe, R. H.　f. 絶対臥褥期　g. コース立方体組み合わせテスト (Kohs Block Design Test)
h. ファシリテーター (facilitator)　i. Norcross, J.　j. Cattell, R. B.　k. 屏風　l. 他者の権利侵害
m. 襖　n. 言語理解／知覚統合／注意記憶／処理速度　o. Wisconsin Card Sorting Test (WCST)　p. Schopler, E.
q. システム理論 (systems theory)　r. Freud, A.　s. 視覚障害　t. フェルト・センス (felt sense)
u. 一般適応反応期　v. 身体拘束禁止規定に反する身体拘束　w. Klein, M.　x. 環境因子／個人因子
y. 非合理的な信念(irrational belief)　z. Folstein, M. F.

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その６

第５問　A は，臨床心理士指定大学院修士２年次の学生である。うつ病に対する認知行動療法に関心を持ち，専門学会主催の単発のワークショップなどにも参加し，その理論と実際を学んできたが，クライエントを担当したことはない。このほど，学内実習の一環として，学内の臨床心理相談室にて，近隣クリニックの精神科医師から「抑うつ状態」と診断を受け「カウンセリングが必要」と言われたクライエントを担当した。インテーク面接において，当該クライエントは「気分が落ち込んだ状態が続いています。以前は楽しめた趣味も楽しめなくなりました。このような状態には『認知行動療法』が有効と聞きました。是非『認知行動療法』をお願いします」と述べた。次の問い（**問１～２**）に答えよ。

問１　このような主訴を述べるクライエントに対して，A は何を聞く必要があるか，「適用」の観点を交えて述べよ。

問２　このような主訴を述べるクライエントに対して，A はどのような対応をとるべきか，「倫理」の観点を交えて述べよ。

小　計	

合　計	